

外部からもたらされたコンフリクト・内部で生じるコンフリクト : 非合法市場の強制撤去を事例に

奥田 若菜 (人間科学研究科 人類学)

はじめに:

本調査研究は、ブラジルの貧困地域の非公式市場(Feira de Camelo/Feira de Artesanato)を事例として、外部からもたらされたコンフリクトによって生み出される、内部でのコンフリクトに焦点を当てる。一つの市場を事例として、外部からもたらされたコンフリクトがどのように内部でのコンフリクトへと影響を及ぼしていくかを明らかにすることにより、コンフリクトの動的な生成過程の考察の一助となると考える。(以下、非公式市場をF.C.、市場の労働者をFeiranteとする)

調査地概要:

ブラジリアの衛星都市セイランジャにあるF.C.は、公式市場の周囲に広がっている。F.C.は、公式市場周辺の路上に物売りが集まりだしたことにより、1970年代から段階的に形成されてきた。安価な食料品や衣類を提供する市場は貧困地域に欠かせないものであり、F.C.で働く1000人以上の労働者(Feirante)、およびその家族を支えている。失業率の高いブラジル北東部からの移住者たちは、正規職につけず、市場で物売りをはじめることが多い。F.C.をはじめとする市場は安価な商品の提供と雇用の両面でセイランジャにとって重要な場である。

セイランジャの中心部に露店主が自然に集まって形成されてきたF.C.は、これまで何度も行政によって撤去が計画されてきたが、Feiranteからなる組織の運動により、暫定的な営業権が与えられるまでとなった。30年以上、営業が続けられてきたが、近年、行政が正式に撤去の方針を打ち出し、代替地 Shopping Popular(以下 Shopping)を建設してきた。建設工事は遅れていたが、2007年8月に代替地への移転が発表され、Feiranteらは抗議活動を行ったものの、3日間で移転(「セイランジャ中心部の掃除」)が行われた。しかしF.C.には公式に認められているだけでも1240以上の露店があるにもかかわらず、Shoppingの店舗数は816しかなかった。

これにより、対行政であったコンフリクトは徐々に内部のコンフリクトに移行していき、Shoppingでの営業権の獲得をめぐる混乱が生じた。Shoppingに用意されている店舗数(区画数)が十分でないことが明らかになるにつれ、営業権を取得する条件について、主張のぶつかり合いが起り始める。移転前から代替地での営業権を得る資格を持つ者のリスト作りが行われていた。長期間、F.C.で営業を行っていた者が優先であると説明されていたが、実際にはその通りにはなっていない。露店をもたずに路上で物売りをしている者も多く、営業権獲得の条件・有資格者と無資格者の境界はさわめてあいまいである。そのために、行政に賄賂を渡してリストにいれてもらったと噂される者がいたり、営業権を得た露店主を裁判で訴えるケースなどがでてくる。(F.C.は非公式市場であるが、人びとの間で営業権(露店区画)が売買されてきた)

調査目的:

これまでセイランジャの非合法市場(Feira de Camelo)で計2年の長期調査を行い、市場の歴史的過程についても研究を進めてきた。市場や路上でインフォーマルセクターの労働者として働く人びとの間で参与観察を行ってきた。今回は、これまでに得られた資料を活用しながら、30年以上続いた市場の強制移転という新たな局面を、詳細に調査することが目的である。

調査するにあたり、F.C.の強制移転という外部からの圧力によって、Feiranteの間の争いが起こると予想した。たとえば、F.C.には大きく二つのグループがある。1)F.C.でごく短期間しか営業していない者、F.C.に固定露店をもたずに流して物売りをしている者、明らかな非合法商品(海賊版DVD/CDなど)を売っている者など、2)F.C.で長期間、固定露店を持って営業している者である。移転計画の進行とともに、1と2の線引きがより明確になり対立関係に陥ることが予想された。固定露店を持つ露店主は、流しの物売りのことを「(我われも非合法だが、彼らは)非合法よりも非合法」と表現することがある。流しの物売りが増え過ぎたために、固定露店からなるF.C.までもが撤去の対象になったと考える者もいる。このように、F.C.にこれまであった対立関係が表面化し、集団化が進むと考えられた。

調査概要:

調査地: ブラジル連邦共和国ブラジリア連邦区セイランジャ(衛星都市)

調査期間: 8月1日出発/8月29日帰国

8月2日-8日 大阪大学/サンパウロ大学共催国際シンポジウム参加(於サンパウロ大学)

8月8日-27日 現地調査(非公式市場と移転先 Shopping Popular de Ceilandia)

・前回調査(2006年10月まで)以降のF.C.の動向/移転経緯資料・行政資料収集/Shopping店舗獲得者の現

在・移転の語り／店舗未獲得者の現在・移転の語り／Shoppingでの店主組織形成経緯／Shoppingでの売上

調査成果：

市場移転経緯：

- ・2005年ごろから代替地への移転計画が具体化
- ・市場組織や行政により、営業権有資格者のリストアップが進められる
- ・2007年8月ー3日間で行政による移転作業が行われる。商品と露店の撤去を行わなかった露店はブルドーザーでつぶされる。何人かの露店主は、Shoppingのインフラがまだ完成していないことなどを挙げ、車道でタイヤなどを燃やして抗議活動を行う。撤去には多くの警察が配備される。騎馬隊など。
- ・同時期に役所やShoppingを会場として、説明会、手続きのための書類提出などが行われる。情報が錯綜。
- ・第一次獲得者(714店舗)の発表
- ・8月18日 Shopping Popular de Ceilandia 開業(実際には9月からの営業)
- ・第二次獲得者(102店舗)の発表
- ・Shopping組織会長選挙 (Feirante労働組合会長とFeiranteアソシエーション会長などが立候補)
- ・売り上げが悪いために、Shoppingの店舗を閉める者が急増(長期間、閉店していると営業権を失う)

現状

- ・町の中心部から外れているために、F.C.ほどの売り上げがない。50%から80%の売上減。

コンフリクト

調査の結果、予想していた内部での集団間コンフリクトは起きなかったことが分かった。それには以下のようないくつかの要因が考えられる。

要因1

少ない代替地の店舗数(816)ー F.C.の半分の敷地しかないため、Feiranteは店舗を得るために個別に動いた

要因2

F.C.の撤去作業と代替地での店舗獲得のための手続きの同時進行

要因3

これまでの調査より：

「深追いを避ける」Feiranteの人間関係ー非公式市場という場の特性がもたらす関係

「不干涉」「突き詰めない」「不介入」「“真実”を求めない」「統一見解を求めない」

ex. 犯人の追及ー火事、泥棒、詐欺

2006年の火事ーFeiranteに多大な損害／市場撤去の遠因(危険な場の撤去)

→ 犯人についての見解が統一されず

外部からもたらされたコンフリクトによって、内部でのコンフリクトが起こることが予想された。しかし調査によって、内部のコンフリクトは表面化もせず、集団間の対立に発展しなかったことがわかった。外部からのコンフリクトは、火事の事例同様、「追求めない」という内部のやり方で処理されることとなった。

映像の可能性：

上記の調査と平行して、映像を使った調査研究を試みた。グローバル COE プロジェクトの一つである「映像プロジェクト」研究会で得られた成果を生かし、映像(ビデオ撮影)を実験的に用いた。映像を用いることにより、調査事例の記録だけでなく、その発表の可能性を広げる。研究成果を文字だけでなく映像で発表することによって、特定の学問領域にかぎらない交流の可能性が生まれる。その可能性を探ることが本研究の試みのひとつであった。

映像(ビデオ)を用いた調査では、一人の女性の生活史に焦点をあててブラジル／都市／低所得者をキーワードにコンフリクトを描くことを目的としている。彼女は1960年代後半に職を求めてブラジルへと移住してきた。不法占拠地に居住するが、行政によって1971年にセイランジャへと強制移住される。その後、物売りとしてセイランジャ中心部の路上で仕事を始める。1970年代から市場の立ち上げにかかり、露店主組織の中心的役割も担ってきた。今回、職場である市場も、行政に移転されることとなった。

今回撮影したビデオは、一つの映像作品としてまとめられる段階ではない。しかし、今後、女性の生活史を描く上でどのような可能性があるのかを探る一助となった。次回の調査では、映像作品を完成させることを目的としたい。